

シリーズ/聖書のこぼれ
[長谷川保と聖書]



神は愛です。

(ヨハネ4:16)

「神は愛である」という聖句は有名ですから、あなたも聞かれたことがあるでしょう。ヨハネというキリストの弟子が書いた三つの手紙の中の一筋に、この言葉があります。なんとこの言葉が分りやすい言葉でしょうか。英語で言うと God is love です。覚えやすいですね。

神は愛の深く大きな御方です。たとえば、人の過ちを七の七十倍、つまり490回も赦してくださるほどに、愛の大きな御方です。

神の愛の大きさがもっともよく表されているのが、キリストの十字架です。父なる神はキリストを十字架に送られました。キリストも自ら進んで十字架にかかられました。人間の罪のあがないとなるためでした。キリスト教が「愛の宗教」と言われる理由は、ひとえにこの「十字架の愛」から来ます。

構内にある「聖隷歴史資料館」の入口に置かれている長谷川保の聖書を見ると、このヨハネの第一の手紙4章のページには、他のページ以上に多くの書き込みがあります。彼も神の愛について、ここから多くを学んだことでしょう。

聖隷学園宗教授
鈴木崇巨

Q 食堂が混雑するようですが？
A 食事の提供を行っているのは、学生ホール(2号館)の食堂とクリスタ(売店)での弁当等の販売となります。大学には長期休暇があるため食堂業者の運営は非常に厳しく、食堂運営のために後援会の補助をいただいているのが現状です。そのため、食事の提供場所を増やすことは難しいのが現実です。

Q 浜松駅から大学までの直通バスを出してほしいのですが？
A 直通バスの運行についてバス会社に相談しましたが、本学のバス通中のバス停で降り降りする学生の利便性、地域の他の利用者による影響等を総合的に検討した結果、直通バスの運行は難しいという結論が出ました。ご理解のほどお願いいたします。(時間帯は限られますが、聖隷クリスタファー高校の直通バスは運行しています。)

そこで大学では混雑緩和策として、①学生ホール(2号館)に補助用丸椅子を設置、②屋外ベンチの設置、③売店の設置、④食事が済んだら席を譲るよう呼びかけるプレートの設置を2006年度までに後援会の補助で実施しました。2007年度からは昼休みをずらすため、学部ごとに2時限目の始まりをずらす授業時間帯の変更を行いました。また、学友会(学生組織)が中心となってお互いに席を譲るよう掲示をしたり、呼びかけをしたりした結果、徐々にマナーの向上も図られてきています。



学生ホールの様子。
補助用丸椅子も利用されています。

●食事ができる場所としては教室の他、下記の場所があります。

場所	座席数	設備
学生ホール(2号館)	442 (補助用丸椅子50脚)	自販機、給茶機、電子レンジ
第1体育館1階の学生ホール	80	自販機、給茶機、電子レンジ
和室の談話室 (学生センター棟1階)	約40 (和室に長テーブル)	電子レンジ
洋室の談話室 (学生センター棟1階)	12	
歴史資料館屋外テラス	24 (4人がけベンチ6脚)	—
屋外ベンチ	88 (4人がけベンチ17脚、4人がけテーブル5脚)	—
芝生	—	—

2007年度保護者満足度調査 結果報告

2007年末に実施いたしました「2007年度保護者満足度調査」へご協力いただきまして、誠にありがとうございました。1359名の保護者の方々のうち460件(回収率33.8%)のご回答をいただきました。集計結果は、学部・専攻ごとのグラフにして本学後援会ホームページに掲載しておりますので、どうぞご覧ください。お寄せいただいた声を元に、学生に対する支援・保護者の方々に対する情報提供をよりよく改善していくよう大学・後援会が協力して努めてまいります。来年度以降も実施の際にはご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

●後援会ホームページ: <http://www.seirei.ac.jp/kouenkai/>

保護者のための

Q&A
第2弾!

2006・2007年度と、大学後援会による「保護者満足度調査」を行い、保護者の方からご意見やご要望等多くの“声”をいただきました。今回はその中で多かった質問にお答えする「保護者のためのQ&A」2005年10月の第26号に続く第2弾です。

ココが知りたい!

立場の保護者のご要望に配慮し、2008年度入学生から保護者の方への成績表送付を開始することにしました。年一回、保護者(連帯保証人1名)宛てに成績表をお送りします。2008年度入学生の成績表は、1年次の成績が出た後、2009年4月にお送りすることになります。2年次以上の在学生の保護者の方には、保護者懇談会でご希望があれば配布する、また懇談会に来られない方からご要望があった場合はお送りするという方法で対応いたします。なお、いずれも、学生さんと保護者の方双方が送付を希望しない場合は成績の開示・送付ともいたしません。所定の手続きにより希望しない旨申し出てください(手続き用紙が教務事務センターにあります)。また、お子さんの成績に関してご心配な点がありましたら、教務事務センターにご連絡ください。アドバイザーなど担当教員からご説明することも可能です。早期にお子さんの変化をキャッチし、ご相談ください。

Q 成績表を保護者にも送付してほしいのですが？
A 他大学でも保護者の方への成績通知は一般的に行われるようになってきました。本学でもこの1年間、検討を行った結果、学費を負担される

Q 看護・社会福祉リハビリテーションと保健医療福祉の今後に必要な学部が揃っている利点を活かして、学生達が学部を越えて学ぶ機会をたくさん作ってほしいと思いますが、何か考えはありますか？
A 対人援助における専門職種間の連携・協働の必要性を理解し、多角的なものの見方ができるようにとの科目目標を掲げて、2008年度から3学部の教育課程に「専門職連携科目」

2科目を盛り込みました。1年次に学ぶ「専門職連携の基礎」は必修科目で、3学部の学生混成グループを基本に、保健医療福祉専門職の連携が必要な事例を学び、ディスカッションをしながら各専門職がどのように連携することができると考えます。2008年度は9月24・25日の2日間で行い、学修の結果は個々にレポートにまとめ、3グループに分かれてプレゼンテーションも行います。3年後の4年次には選択科目として「専門職連携演習」を、同様に3学部の学生混成で学びます。卒業後の活躍に必要な保健医療福祉の連携・協働を入学時から意識付ける科目として本学が力を注ぐ科目のひとつです。

学生支援

Q 災害等が起きたとき、保護者は学生の安否をどのように確認したらよいのでしょうか？

A 東海地震が発生した場合を想定し、大学では年度始めに防災訓練を行っています。その中で学生の皆さんに「聖隷学園地震防災対策カード」の常時携帯を呼びかけています。このカードには聖隷学園の地震防災対策の基本事項を記載しており、中でも、大地震発生時に学生の安否を把握するための「聖隷学園安否確認システム」は、インターネットにつながる携帯電話を使って学生自身が自身の安否情報を大学へ送信するもので、防災訓練オリエンテーションの中で実際に操作をして確認しています。

大学ではこのシステムを利用して学生の安否を把握します。他にもこのカードには、避難地の案内や、大地震に備える基本行動等をまとめてあります。ご家族との安否連絡にはNTT災害用伝言ダイヤル17171の利用を案内していますので、ぜひ度お子さんと一緒にご確認ください。また、キャンパスライフにも災害時の対応をまとめて掲載しています。(2008年度版ではP25~28)

聖隷学園地震防災対策カード(オレンジのカード)。安否情報は携帯電話(インターネット対応)を使って送信できます。



Q 暗くて夜道が不安な場所があると聞いています。街灯を増やす等対策を講じてほしいのですが？
A 学生・保護者の方々からのご要望を受け、夜間に照明の調査を行い、1号館図書館東側の坂の途中に照明を設置しました。また、第二駐車場と第二駐車場の間の横断歩道付近、およびキリスト教センター西側にも設置予定です。これらはすべて後援会の補助により実施します。

10:30 特別講演

学会との共同企画により、明治学院大学北川清一教授が「脱構築分析による事例研究の意義～ソーシャルワーカーが引き起こす不祥事を乗り越えるために～」と題して講演しました。



在学生会は華やかな
ブラスバンド演奏で歓迎

12:00 ランチパーティ
@学生ホール

佐々木社会福祉学部長の歓迎の挨拶に始まり、在学生会、社会福祉学部・店村准教授の歓迎演奏、続いて各年代の卒業生、退職された先生方、社会福祉学会役員の方々がそれぞれの想いを語りました。

発表後の
質疑応答の様子。
発表者は学部卒業生の
金原さん



13:00 研究・実践報告

報告に熱心に耳を傾ける
参加者の皆さん



2会場、あわせて80名が参加しました。1会場各5名、計10名の方が現職の福祉関係施設や公的機関での実践や研究について発表。参加者は発表内容に熱心に耳を傾け、質疑応答も活発に行われ充実した報告会になりました。

共通プログラム

各種相談会・見学会

当日は看護・福祉職復帰相談、大学院進学相談、子育て支援相談のコーナーを設け、多くの卒業生に利用していただきました。また、キャンパスツアーによる学内見学のほか、聖隷歴史資料館を開放して見学していただきました。歴史資料館を見学した卒業生からは、「『聖隷』の歴史を振り返り原点に立ち返ることができ励みになった。」との声もあり、好評でした。



看護・福祉職復帰相談。
復帰の斡旋が実現した方も
ありました

開催日
決定

2008年度ホームカミングデー

11月22日(土) 3学部合同開催!

卒業生の皆さんの企画をお待ちしています。同期の方と誘い合わせてプログラムにご参加ください。詳細は、追って大学ホームページおよび郵送にてご案内いたします。



「お帰りなさい! 卒業生の皆さん」

卒業生を大学にお招きし、在学生や教職員との交流・親睦を深め、また卒業生どうしの情報交換・交流による卒業生のネットワークづくりを目指して、2007年度に初めて「ホームカミングデー」を開催しました。12月1日には短期大学時代からの看護系卒業生116名、12月15日には福祉医療ヘルパー学園・聖隷介護福祉専門学校を含む社会福祉系卒業生46名が参加しました。退職された先生方、現職教職員、在学生も参加。卒業生の皆さんは久々の再会で旧交を温め、またあちこちで看護職・福祉職の求人も話題となりました。

看護系 2007年12月1日(土)

9:30 卒業生と在学生との懇談会

就職活動を翌年に控えた在学生が、臨床や地域で活躍する卒業生から病院・施設別に直接話を聞き、進路に対する具体的なイメージを膨らませました。卒業生50名、在学生140名が参加。

卒業生から多くの言葉を
いただきました



12:00 ランチパーティ
@学生ホール

参加者が一堂に会してのランチパーティでは、中野看護学部長(当時)からの歓迎の挨拶に続き、在学生のブラスバンド、バイオリン・ピアノ演奏をはさみ、卒業生・退職された先生方からの本学への想い、励ましの言葉をいただきました。



退職された先生方も
多数ご参加くださいました。
写真は初代看護学部長の
丸川和子先生

13:30 小島操子学長 特別講演

午後のプログラムのひとつとして、150名を超える参加者を前に、2007年4月に就任した小島操子学長の特別講演「これからの医療と看護の役割—チーム医療と看護倫理を中心に—」が行われました。

がん看護分野の
わが国第一人者である
小島操子学長の講演風景



新任教員の紹介
[4月1日付就任]

- ①出身校
- ②前任校・前勤務先
- ③専門分野



「看護学部」地域看護学
岩清水 伴美 助教
①聖隷クリストファー大学大学院看護学修士課程の静岡県西部健康福祉センター②地域看護学



「リハビリテーション学部」作業療法学専攻
小田原 悦子 教授
①南カリフォルニア大学作業療法学修士課程の登録リハビリセラピスト②作業療法士として身体障害のある人々を支援するための作業療法士③作業療法士

2008年度教員人事に関する報告
※初任以外は再任

役職者
看護学部長 初任 渡邊 順子 教授
社会福祉学部長 佐々木 敏明 教授
保健科学研究科長 初任 宮前 珠子 教授
看護学研究科長 藤本 栄子 教授
社会福祉学研究科長 小松 啓 教授
リハビリテーション科学研究科長 宮前 珠子 教授
社会福祉学部 社会福祉学系主任 初任 山本 誠 教授
社会福祉学部 こども教育福祉学系主任 初任 小川 恭子 准教授
教務部長 初任 木下 幸代 教授
学生部長 初任 立石 恒雄 教授
就職部長 初任 大場 義貴 准教授
図書館長 初任 波辺 泰宏 教授
リハビリテーション学部 理学療法学専攻長 吉川 卓司 教授
リハビリテーション学部 作業療法学専攻長 初任 新宮 尚人 教授
リハビリテーション学部 言語聴覚学専攻長 長谷川 賢一 教授

「看護学部」地域看護学(大学院)
川村 佐和子 教授
①東京大学医学部衛生看護学修士課程、昭和大学医学博士②青森県立保健大学大学院健康科学研究科博士後期課程③地域看護学



「専門分野は地域看護とくに神経系難病の方々に対する在宅看護チームケアに関する実践的研究でこれらを通して看護のあり方を追求しています。」

「看護学部」老年看護学
長澤 久美子 助教
①聖隷クリストファー大学大学院看護学修士課程の駿河看護専門学校②老年看護学



「大学時代はいろいろなことを自由に考えたいという思いから、遊び、楽しみ、感性も養ってほしい。これからよろしくお願ひ致します。」

「看護学部」小児看護学
市江 和子 教授
①名古屋大学大学院医学研究科健康社会医学専攻博士課程②日本赤十字学園 日本赤十字豊田看護大学③小児看護学



「はじめまして。皆さんと共に、子どもの立場にたち、子どもにこそこの最善の利益とは、を考える授業をしていきたいと思っています。」

「看護学部」基礎看護学
炭谷 正太郎 助手
①聖隷クリストファー大学大学院看護学修士課程②聖隷三方原病院救命救急センター③基礎看護学



「私は学部3期生で卒業後、臨床を経て本学大学院修士課程を修了。現在本学大学院博士後期課程で勉強中です。教員として新米ですが、皆さんと一緒に成長していきたいと思っています。よろしくお願ひ致します。」

「看護学部」成人看護学
緒方 久美子 准教授
①大阪府立看護大学大学院看護学修士後期課程の産業医科
②産業保健学部看護学③急性看護学



「このたび初めて東海地方に来ました。浜松の地で皆さんと共に看護学を学ぶことを楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひ致します。」

「看護学部」小児看護学
山本 智子 助手
①聖隷クリストファー看護大学(当時)看護学部看護学修士課程の聖隷健康診断センター②小児看護学



「私は本学の1期生です。大学に戻り、皆さんと勉強することになり、うれしく思います。気軽に声を掛けて下さい。」

「看護学部」老年看護学
小池 潤 准教授
①富山県立看護大学大学院医学研究科成人看護学専攻修士課程
②長岡中央総合病院③老年看護学



「看護師と保健師と幅広く看護職を経験してきました。新しい職場での発見を是非にしています。何事にも前向きに取り組んでいきたいと思います。」

「社会福祉学部」保育学
堀 建治 助教
①愛知教育大学大学院教育学研究科の鈴鹿短期大学②保育学



「子どもを知ろうとすれば、深い学びが必要となります。お互いが向上できるように授業を提供していきたいと思っています。」

「リハビリテーション学部」理学療法学専攻
金原 一宏 助教
①常葉大学医療専門学校②JA静岡厚生連 静岡厚生病院③理学療法士



「これまでの臨床経験をもとに、皆さんと共に学び、日々成長していければと思います。よろしくお願ひ致します。」

「リハビリテーション学部」理学療法学専攻
前野 竜太郎 助教
①弘前大学医療技術短期大学部理学療法学科立教大学大学院文学部比較文化学専攻博士前期課程の青森県立保健大学健康科学部理学療法学科②理学療法士



「人生において失敗したり迷ったとき、迷わずに勇気を持って前進していき、たとえうまくいなくても「一杯梅干」を生かすことが皆さんに与えられた唯一の使命だからです。Good Luck!!」

「リハビリテーション学部」作業療法学専攻
辻 郁 准教授
①金沢大学大学院医学系研究科の学校法人福田学園 大阪リハビリテーション専門学校②作業療法士(主として)地域作業療法士



「保健医療福祉に携わる「専門家」と成るべく、お互いに研鑽していきたい。知識・技術の習得だけでなく、自己管理も大切ですね。」

「リハビリテーション学部」言語聴覚学専攻
藤原 百合 教授
①広島大学大学院歯学総合研究科展開歯科学専攻博士課程②広島大学病院特殊歯科総合診療部言語聴覚室③言語病理学



「科学的な思考ができ、障がいのある方と共に歩むハートを持った言語聴覚士を目指して共に努力を重ねていきたいと思います。」

私の教育研究

精神障がい者の生活の質を高める



小平 朋江 准教授
看護学部

■最終学歴:聖隷クリストファー大学大学院看護学修士課程(看護学修士)
■所属学会:日本看護科学学会、日本保健看護学会、日本地域看護学会、日本教育心理学会、日本コミュニティ心理学会、日本発達心理学会、日本応用心理学会など
■研究テーマ:心の病を抱える方々への看護、統合失調症の方々の地域での居場所、偏見予防教育

と一般大学生の自我同一性の様相を比較する研究に取り組みました。大学時代も精神科病院での仕事はアルバイトで継続し、当事者の方々の病いの語りをじっくりと聞かせていただきました。この経験が後に大学院で研究に取り組みることになった時、私に大きな影響を与え、この経験が初め、看護の実際を事例として学会などで報告してみたり、教員になったのは、看護学生が初めて実習で精神科病棟に入った時、どのような体験をして学んでいくのか、事例で検討する事にも魅力を感じていました。教員の仕事をしながら学んだ大学院では、思春期青年期の治療を専門とする地域の精神科デイケアで、当事者の方々はどんな体験をしてどう成長しようとしているのか、当事者の立場からの語りを聞かせていただく質的研究に取り組みました。このような研究への取り組みにより、障がいがあるなしに関わらず、思春期青年期の心の問題をめぐる人間の発達や成長についての理解が深まりました。このことは、教員である今、看護師を目指す大学生の心の揺れ動きを理解する上でも多くの示唆を与えられ続けています。

新人看護師として総合病院の精神科に勤務した頃、最も印象深かったのは、自分と年齢も変わらない思春期青年期の統合失調症の方々の出会いでした。当事者の方々の苦しみを目の当たりにした時、この病気に対しては社会の人々の偏見や差別もあり、看護学の知識だけでは理解できない事や解決できない事がたくさんあると気づきました。障がいを抱えながらもその人らしい成長発達の実現を考えた時、どんな考え方を持っていればよいのだろうかとも悩みました。

そこで、看護学以外の観点から人間を捉えられるようになりたいと思い、心理学を学ぶために大学院に進学しました。大学では教育心理学のゼミが私の拠り所となり、ゼミの先生のご指導の下、子どもの発達や成長を支えるとはどういうことか、自分の関心を研究的な視点で考える面白さや、研究のプロセスにのせていく楽しさを学びました。ごく基礎的ですが、心理学実験室で学生同士お互いを被験者にしての実験心理学の方法も学び、錯視図形や残像、短期記憶の実験などは20年近く経った今でも記憶に鮮明です。卒業論文は、質問紙と面接法により、看護学生

精神障がい者の生活の質を高め、障がいを抱えながらの成長や発達を保障し促す環境を考えた時、精神障がいに対する偏見など、周囲の人々の態度や認識がどのようなものであるかは大きな問題です。心の病いを正しく理解するためには、できるだけ若い時期からの教育も重要と考えられます。そこで、精神看護学の視点や知見、方法も活用しながら心理学の研究者との協働で、偏見予防のための教育方法や教材開発に向けて一般大学の学生の協力も得るなどして、統合失調症の病気の人の対する大学生の態度の変化を測定する研究にも取り組んでいます。看護学生の臨床実習でも、まず診断名に興味を持つのではなく、病いを病むその人に関心を持つような指導を心がけています。学生の皆さんと一緒に、そして研究を通して、障がいのある人もない人も共に生きられる社会の在り方を考え続けていきたいと思っています。

まず、やってみよう!!



西田 裕介 准教授
リハビリテーション学部

■最終学歴:国際医療福祉大学大学院博士後期課程(保健医療学博士)
■所属学会:日本理学療法士協会、理学療法科学学会、日本体力医学会、日本老年医学会、日本運動生理学会、心臓リハビリテーション学会など
■研究テーマ:運動生理学から捉えた理学療法介入に関する研究(主に心拍変動解析を用いた自律神経機能の評価に関する研究など)

私をはじめ研究らしきものに取り組んだのは、大学2年生の春休みである。ある日、教員のK先生(恩師)から、「データでも取ってみようか」と軽い乗りで誘いを受けた。そのときは、何がなんだかかわからずに始めた研究であったが、データを測定していくうちに、「その数字の意味」、「何をどのよう論理展開をしていくのか」など、身をもって体験することができた。研究自体は楽しいことばかりではなく、困難なことも多かつたが、私は「やらされている」感じは全く無く、興味や面白さ、充実感のもと、最後までやり遂げることができた。いま、私がこうして理学療法という学問に興味を持ち、それを追求しようと思えるきっかけを作っていたように思う。

現在、私自身、大学教員として学生と接するとき、存在の強さに驚かばかりである。おそらく、そのときの先生は、学生であ

った私達以上に、研究を楽しみ、理学療法自体を楽しんでいたのではないだろうか。私もK先生と同じようにはできないとしても、学生から見ても、あの先生は楽しそうだなと興味を持ってもらえるように努力しようと思う。それが、学生の進むべき道のきっかけになれば、この上ない幸せである。

唐突ではあるが、ここに私が研究を行なうときにいつも念頭においているKhyの「研究者のための十戒」を以下に示す。これは、研究のみに関わらず、様々な場面で応用している。①まず行え、②自分を尊敬せよ、③楽観主義者であれ、④エレガントであれ、⑤分けよ、そして征服せよ、⑥締め切りを守れ、⑦テーマから離れるな、⑧大きく考えよ、⑨仮説を検証せよ、⑩楽しめ、である。しかし、いざ研究(仕事、勉強)をはじめようと考えたとき「今やっていることで忙しい」などの言い訳を考えた事はないだろうか。「忙しい」という言葉は、いろいろな気持ちを反映する言葉であり、また逃げ口上の一つにも聞こえる。Mindが「まず行え」というように、いろいろな考えるより、まずはやってみることが大切である。また「楽しむ」ことでの成果は飛躍的に向上すると思う。ナンセンスな事でも、「生懸命やることで道は開く」と思う。もし開けなくとも、それはそれで良いのではないかと考えるだけの自分を持つていたい。実際には、自分のやる気次第で、解決することのほうが多いと思う。私はスーパーマンではないので、どこかに重きを置いて生きていくしか能力が無い。今は理学療法研究・大学教育を通して、全力で学生と向き合おうと思う。もちろん、今の私が存在するのは、家族の支えのおかげである。家族のみんな、いつもありがとう。ごい

CHRISTOPHER news クリストファーニュース

看護学部にて 課せられた 新たな挑戦



看護学部長 渡邊 順子

2004年10月聖隷クリストファー大学看護学部教授に就任し3年が過ぎようとしていた昨年11月、まさに青天霹靂のごとく看護学部長拝命という事態に遭遇しました。冷静に考えれば考えるほど、この重責にどのように対処すべきか思案し尽くせない状況に戸惑っているのが本音でした。

539人から12,223人となり、看護職の1%だった大卒看護師が20%を超える勢いで増え続けています。看護学の大学教育が重要になればなるほど、教育と研究の質を保証しなければなりません。質を保証するためには、多くの「評価」が義務付けられることも改めて認識しなければなりません。この4月より、本学では大学院保健科学研究科博士後期課程(3年)が開設され、学士課程の4年間よりも長い5年間の大学院教育が始まります。大学院教育の基盤となる学士課程教育の見直しは必至となるでしょう。

そして、看護職の教育基本法ともいべき「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」が、2008年に12年ぶりに改正され、昨年夏より看護学部のカリキュラム改訂作業を順次進めています。改正意図の大きなポイントは、「臨床実践力の強化」です。4年間という限られた時間で、膨大な専門知識と専門技術を教育教授することは困難を極めます。しかし、卒業時における看護専門職としての知識と技術の完成度すなわち臨床実践力を担保することは、専門高等教育の責務です。いまや学生と教員の資質向上は個々人の努力義務ではなく、学部組織全体に課せられた必至課題です。時は待ってくれません。看護学部は新たに課せられた課題に挑戦すべく、20余年の大学教員として培ってきた感性と力を惜しむことなく活かしていく決意をしました。

聖隷クリストファー大学 大学院保健科学研究科博士後期課程および社会福祉学部こども教育福祉学科

開設記念講演会・祝賀会

講演/聖路加看護大学名誉学長 日野原重明氏

◆日時:2008年7月26日(土) 13時~(予定) ◆場所:アクトシティ浜松コンgresセンター31会議室(祝賀会:41会議室)

2008年度 公開講座 専門職者の更なる質の向上を目指して

今年度も本学では専門職の方および一般の方を対象とした公開講座を開催いたします。詳細は順次大学ホームページに掲載します。2007年度からはインターネットを利用した申込受付も始めました。たくさんの皆様方のご参加をお待ちしています。

■2008年度開催予定

- 1 『子ども虐待の理解と支援』 講師:山梨県立大学人間福祉学部教授 西澤哲氏
2 リーダーシップに関する講演会 講師:特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本名誉会長 細川佳代子氏
3 専門職連携に関する講演会 講師:未定

■申込方法

大学ホームページ→公開講座 (http://www.seirei.ac.jp/koza/)
インターネット 上記ページからお申込が可能です。画面の案内に従って必要情報を入力後、送信してください。

Fax.053-439-1406
ファックス 氏名(フリガナ)・住所・電話番号・FAX番号・職業(勤務先)・申込講座名をお知らせください。FAX用紙は大学ホームページからダウンロードできます。

図書館

「深瀬記念文庫」を開設しました

2007年12月19日(水)に「深瀬記念文庫」が図書館に開設され、記念礼拝が行われました。



「深瀬記念文庫」

この記念文庫を寄贈してくださった深瀬須加子先生は、1999年4月に聖隷クリストファー看護大学(当時)の2代目学長として本学に就任。2007年3月に学長職を退任するまでの8年間、社会福祉学部・リハビリテーション学部および大学院社会福祉学研究科・リハビリテーション科学研究科の開設に力を注ぎ、また、2008年4月開設の大学院保健科学

研究科博士後期課程の設置準備においても、中心的に携わってこられました。

記念文庫は「保健科学研究科のために専門図書」をさらに充実したものにしたい、また同時に「一般教養についても蔵書を充実したものにしたい」との先生の願いから、約100万円のご寄付をいただき、実現しました。大学では、先生の温かい志に感謝し、専門図書877点、一般教養図書247点、書架1台を選定し、購入しました。開設記念礼拝では、深瀬先生による挨拶のほか、学長や理事長からの感謝の言葉、また、図書館長による記念文庫の紹介が行われました。



今回ご寄付をいただいた深瀬須加子前学長

健康教室

「食育」をテーマに健康教室を開催しました

2007年6月10月にかけて、健康管理センター主催で「食育」をテーマに健康教室を4回開催しました。学生が大学生活を心身ともに健康に過ごし、自分の健康は自分で守ることができるように、食事を通して学びました。実施内容は次のとおり。
第1回「健康的でバランスの良い食事とは」
今までの自分の食事を振り返り、バランス食について学びながら会食しました。
第2回「自分に合った健康的な食生活を始めよう」
自分に必要なカロリーを学び、カロリーを意識しながら食品を選択して試食しました。
第3回「作ってみよう簡単に美味しいバランス食」
「浜北食育の会」の皆さんをお招きして、バランス食の作り方を教えていただきました。



実際に調理体験もしました
作った食事は皆でおいしくいただきます。写真は「浜北食育の会」の皆さんと

◎第4回「今までの私、そしてこれからの私」
4ヶ月間の食生活を振り返りながら、食事作りを行いました。

国際交流

中国第三軍医大学 周明芳准教授が報告発表会を行いました

3月3日(月)に、中国第三軍医大学看護学部・周明芳准教授が報告発表会を行いました。

周准教授は、本学と交流協定を結んでいる中国の第三軍医大学より昨年10月に来学。5カ月にわたり、主に助産学分野の研修と研究を行いました。研修の内容は、看護学部および大学院看護学研究科の授業の聴講、母性看護学や助産学分野を中心とした本学学生の実習見学、病院内行事への参加など。また、隣接する聖隷三万原病院の産婦人科、救命救急センター、ホスピスにおいて実習を行うなど、精力的



流暢な日本語で発表する周明芳准教授



報告発表会の様子

報告発表会では、今回の研修の日々を振り返り、「新生児医療における日本の看護レベルは進んでいると感じた」「訪問看護ステーション等での実習同行や浜松市防災訓練への参加を通して、地域住民の生活が理解できた」と感想を述べ、また、第三軍医大学での看護教育や、中国における最新の産科事情などを紹介しました。

最終講義

退職教員による最終講義を行いました

看護学部リハビリテーション学部において、2007年度末で退職した教員による最終講義が行われました。講義をされたのは次の4名の先生方です。

▼看護学部(地域看護学)／中野照代教授 「がんの子どもとその親から学んだこと」と題し、悪性腫瘍を患った子どもをもつ母親の思いや、がんで子どもを亡くした親の悲嘆への援助などについて、自身の研究を振り返って講義しました。
▼リハビリテーション学部／大場浩教授 演題は「環境因子の遺伝子への影響について」。金属化合物やヒ素化合物、環境ホルモンの遺伝子への影響や、がん化と遺伝子などについて講義しました。



安孫子誠也教授 中野照代教授



鈴木惠理子教授 大場浩教授

図書館から

保健医療福祉の専門職者へ
図書館を開放します

従来図書館では、卒業生や聖隷関係施設の職員といった方々に限定して、外部利用者への閲覧サービス(卒業生に対しては2007年度より貸出も実施)を行っていましたが、近年聖隷関係施設以外の保健医療福祉の専門職者の方々より利用の要望が大変多くあることと地域貢献を考慮して、2008年4月より保健医療福祉の専門職者に対し図書館の開放を行うこととしました。多くの方々のご利用をお待ちしております。

- 利用者の範囲
保健医療福祉の専門職者
- 利用条件
(原則として)勤務先がわかる身分証明書
2回目以降は利用者証の提示(年度更新)
- サービスの範囲
閲覧、複写

大学から

教育学術情報データベースを
公開しています

本学への入学希望者や広く一般社会への情報提供、学生への教育支援、学外研究者・企業等との共同研究の促進を目的として、本学専任教員の教育学術情報を大学ホームページ「教育・研究活動」で公開しています。本学教員の専門分野・研究業績等がご覧いただける他、キーワードによる検索も可能になりましたので、ぜひご覧ください。

2008年度キャンパススケジュール

(予定)

4月	4日	入学式
	5日	大学院オリエンテーション・ガイダンス
	7日	新入生オリエンテーション・在学生ガイダンス(9日まで)
	8日	防災訓練
	9日	大学院授業開始
5月	10日	春semester授業開始
	29日	授業日(みどりの日)
	1日	創立記念日
5月	2日	休日(みどりの日振替)
	7月	12日
17日		休日(海の日振替)
21日		授業日(海の日)
26日		大学院博士後期課程保健科学研究科および社会福祉学部子ども教育福祉学科開設記念講演会・祝賀会
8月	春semester定期試験 授業の最終回および予備日間に実施	
	27日	春semester追・再試(29日まで)
9月	25日	春semester卒業証書・学位記授与式・修了式(卒業式)
	26日	秋semesterガイダンス
	27日	リハビリテーション学部 保護者懇談会
10月	13日	授業日(体育の日)
	14日	休日(体育の日振替)
	25日	看護学部 保護者懇談会
11月	1日	聖灯祭準備日
	2日	聖灯祭
	24日	授業日(勤労感謝の日)
12月	26日	休日(勤労感謝の日振替)
	17日	クリスマス礼拝
2月	25日	冬期休業(1月5日まで)
	2日	秋semester授業終了
3月	秋semester定期試験 授業の最終回および予備日間に実施	
	23日	秋semester追・再試(25日まで)
3月	16日	卒業証書・学位記授与式・修了式(卒業式)、卒業パーティ

学生数	
2008年4月4日現在()内は男子内数	
看護学部	
1年次生	152(22)
2年次生	152(14)
3年次生	147(14)
4年次生	163(10)
計	614(60)
社会福祉学部	
社会福祉学科	
1年次生	71(30)
2年次生	78(29)
3年次生	94(32)
4年次生	112(50)
子ども教育福祉学科	
1年次生	34(6)
計	389(147)
リハビリテーション学部	
理学療法専攻	
1年次生	39(23)
2年次生	33(24)
3年次生	32(20)
4年次生	31(18)
作業療法専攻	
1年次生	42(14)
2年次生	32(9)
3年次生	33(9)
4年次生	35(14)
言語聴覚専攻	
1年次生	29(2)
2年次生	23(6)
3年次生	22(3)
4年次生	28(6)
計	379(148)
助産学専攻科	
2008年度入学生	12(→)
計	12(→)
大学院看護学研究科修士課程	
1年次生	9(0)
2年次生	9(0)
計	18(0)
大学院社会福祉学研究科修士課程	
1年次生	2(0)
2年次生	10(3)
計	12(3)
大学院リハビリテーション科学研究科修士課程	
1年次生	11(10)
2年次生	8(5)
計	19(15)
大学院保健科学研究科博士後期課程	
1年次生	17(5)
計	17(5)
総合計	1460(378)

聖隷クリストファー大学後援会 2007年度決算・2008年度予算について

2008年4月4日(金)に2008年度後援会総会が開催され、下記のとおり2007年度決算及び2008年度予算が承認されました。2007年度決算は、学生福利厚生設備備品の補助費の一部を計画的に繰り越しているため、繰越金が約31万円増加しています。2008年度予算は、社会福祉学部にも子ども教育福祉学科を開設、またリハビリテーション学部の言語聴覚学専攻の定員増をしたことに伴い収入増が見込まれます。支出面では、国家試験対策講座等補助費を増額し、また、学生福利厚生設備備品の補助費には前年度からの繰越金を加算して校舎周辺の防犯灯の整備をする計画です。

毎年の予算編成にあたっては、当該年度の収入の全額を学生生活支援のために還元するよう考慮し、繰越金を除いた単年度の収入・支出のバランスがとれた計画立案をしています。

収入の部		(単位:円)		
科目	項目	2007年度決算	2008年度予算	
入会金・会費	入会金	3,265,000	3,540,000	
	会費	27,290,000	27,400,000	
利息	預金利息	29,991	30,000	
前年度繰越金		5,747,959	6,062,827	
収入の部合計		36,332,950	37,032,827	
支出の部		(単位:円)		
科目	項目	2007年度決算	2008年度予算	
教育活動振興援助費	新入生セミナー援助	1,057,492	1,114,000	
	海外研修補助費(アメリカ:ネブラスカ・ウエスリアン大学)	143,781	150,000	
	海外研修補助費(シンガポール:ナンヤン理工学院)	99,646	150,000	
	海外研修補助費(中国:第三軍医大学、隔年実施)	0	120,000	
	看護学部 遠隔地実習交通費補助	1,376,456	1,400,000	
	社会福祉学部 国際福祉実習渡航費用補助	100,000	100,000	
	リハビリテーション学部 実習宿泊費補助	1,400,000	1,400,000	
	助産学専攻科 学外学会等参加費の補助	32,200	50,000	
	国家試験対策講座等補助費	1,293,240	1,550,000	
	福利厚生費	学生相談室に係る費用の補助	5,351,344	5,300,000
		学生相談室運営費	320,720	300,000
		学生健康診断補助	4,333,020	4,387,000
		学友会活動への援助(学友会活動、クラブ活動、聖灯祭開催等)	1,500,000	1,500,000
	学友会活動への援助(ボランティア活動推進委員研修費)	0	50,000	
	クラブ指導者への謝礼	225,000	300,000	
	学生食堂光熱水費、衛生管理費等への補助	4,128,606	4,100,000	
	売店運営補助	90,781	100,000	
	交通安全・防犯啓発活動費用の補助	143,170	150,000	
	卒業記念品贈呈	1,039,340	1,140,000	
	卒業パーティ補助	2,100,000	2,100,000	
	家主懇談会援助	1,560	5,000	
	学生用コピー機、印刷機費用の補助	2,138,162	2,000,000	
	健康管理センター薬品等購入費	261,872	300,000	
会員情報提供費	大学報印刷費、発送費	1,446,664	1,500,000	
	保護者懇談会の開催	572,360	600,000	
施設設備費	学生福利厚生設備備品の充実費用	482,173	700,000	
	学生駐車場防犯カメラリース料	189,624	189,624	
	大学周辺の防犯灯維持費	62,768	70,000	
総務費	慶弔費	71,219	50,000	
	保護者満足度調査経費(郵送費)	157,620	160,000	
	会費納付書等印刷費、郵送費	42,955	50,000	
	役員会(年3~4回)	62,000	80,000	
予備費		46,350	5,867,203	
次年度繰越金		6,062,827	0	
支出の部合計		36,332,950	37,032,827	

〈後援会からのお願い〉

日頃は聖隷クリストファー大学後援会活動にご協力いただき誠にありがとうございます。後援会では①学生の教育活動の振興援助に関する事業、②学生の福利厚生に関する事業、③会員への情報提供に関する事業、④施設・設備の充実に係る事業を4つの柱とし、学生生活の充実に各事業を実施しています。近年、残念なことに後援会費の未納者が増え、会費納入のお願いを事務局が何度もしなければならぬケースが増えてきました。保護者の皆様には後援会活動の趣旨をご理解いただき、後援会活動に是非ともご協力いただきますようお願いいたします。 後援会会長 吉村哲志

後援会HP: <http://www.seirei.ac.jp/kouenkai/>

Q1 本誌の全体の印象について○印をつけてお聞かせください。(具体的なお意見もお書きください)

- 1 読みやすい 2 読みにくい

Q2 本誌で興味を持たれた記事に○印をおつけください。(いくつでも)

- 1 特集 保護者のためのQ&A 2 聖書のことば 3 特集 ホームカミングデー
4 新任教員の紹介 5 教員人事に関する報告 6 私の教育・研究
7 看護学部新学部長 就任にあたって 8 公開講座 9 クリストファーニュース
10 後援会から 11 お知らせ

Q3 本誌へのご意見、ご要望、その他大学に関するご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

読者アンケートのお願い

読者の皆様から多数の貴重なご意見をいただきありがとうございました。主なご意見・ご質問に関する回答は後援会のホームページに掲載しています。引き続き学報に関するご意見をいただければ幸いです。お便りお待ちしております。